

【】ことわざ 熟語 意味

[\[FdText Home\]](#)

悪事千里を走る	悪いことは、だれも知らないと思っても世の中に伝わりやすい	悪事(あくじ), 千里(せんり)
悪銭身につかず	不正なことでもうけたお金は、自分の身につかず、すぐになくなってしまうこと	悪銭(あくせん)
足元に火がつく	危険が身近に迫ること	
足元から鳥が立つ	意外なことが突然身近に起こること	
頭隠して尻隠さず	欠点の一部を隠して、全体を隠したと思ひこむこと	隠(かく)す, 尻(しり)
あとは野となれ山となれ	自分と関係がなくなったら、あとはどうなるうとかまわない	
朝起きは三文の得 あばたもえくぼ	朝早く起きると何かよいことがあるものだが好きな人のことは欠点までもが長所のように見えること	三文(さんもん)
虻蜂とらず	欲張りすぎてかえって失敗すること	虻(あぶ), 蜂(はち)
雨降って地固まる	雨はいやなものだが、地面を固めてくれるように、争いの後は、かえってうまくいくこと	
雨垂れ石をうがつ	力は不足でも根気よくくり返してやれば、最後は成功する	雨垂(あまだ)れ
案ずるより生むがやすし	いろいろ心配するよりやってみると案外うまくいくものだ	案(あん)ずる
石の上にも三年	何事にもしんぼうが肝心(かんじん)である	
石橋をたたいてわたる	ものごとをじゅうぶん用心してやること	
衣食たって礼節を知る	着るもの食べるものが十分あるといやしい心も起こらず礼儀をわきまえるようになる	衣食(いしょく), 礼節(れいせつ)
医者の不養生	他人にはりっぱなことを言いながら、自分では実行しないこと	不養生(ふようじょう)
一寸の虫にも五分の魂	小さく弱い者にも意地があること	一寸(いっすん), 五分(ごぶ), 魂(たましい)
一寸先は闇	ごく近い将来のことでも、何が起こるかわからない	一寸(いっすん), 闇(やみ)
一銭を笑う者は一銭に泣く	少額といってその値打ちをばかにする者は、そのわずかな金額のために泣く思いをする	一銭(いっせん)

急がば回れ	急いでいるときほど、あわてずにものごとを処理(しより)しなけれならぬ	
一事が万事	一つのこと、他のすべてのことを推し量ること	一事(いちじ), 万事(ばんじ)
井の中の蛙大海を知らず	自分だけのせまい世界にとらわれて、広い世界を知らないこと	井(い), 蛙(かわず), 大海(たいかい)
犬も歩けば棒にあたる	よけいなことをすると災難(さいなん)にあう	棒(ぼう)
言わぬが花	はっきり言わない方がよい	
魚心あれば水心	こちらの気持ちしだいで相手もそれに応じること	魚心(うおごころ), 水心(みずごころ)
うそも方便	時と場合により、うそも必要だ	方便(ほうべん)
うわさをすれば影	人のうわさをすると、当人がちょうど現れるものだ	影(かげ)
氏より育ち	血すじより、育った環境が大切であること	氏(うじ)
鶺鴒の目鷹の目	物をさがしたそうとするすどい目	鶺鴒(う), 鷹(たか)
馬の耳に念仏	いくら言ってもききめのないこと	念仏(ねんぶつ)
えびで鯛を釣る	わずかな元手(もと)で大きな利益を得ること	鯛(たい), 釣(つ)る
縁の下の力持ち	他人のために、人に知られないで陰で努力する人のこと	縁(えん)
老いては子に従え	年をとってからは、出しゃばらずに子どもの意見に従った方がよい	
帯に短したすきに長し	ちゅうとはんばで役に立たないこと	帯(おび)
おぼれる者はわらをもつかむ	追いつめられた状態ではたよりにならないものにもたよろうとすること	
鬼に金棒	強い者がさらに強いものを得て、対抗できる者がいない状態になること	金棒(かなぼう)
鬼の目にも涙	無慈悲な者もときには情けに負けるということ	涙(なみだ)
鬼のかくらん	いつもは丈夫で病気しらずの人が病気になること	
親の心子知らず	子を思う親の気持ちを察しないで、子は自分勝手な行動をするものだ	
親はなくとも子は育つ	実の親がいなくても、子どもは何とか育っていくものだ	

親の七光	親の威光がその子にまで及び恩恵を受けること	七光(ななひかり)
終わりよければすべてよし	途中で何があっても結末がよければすべてよいと評価されるものだ	
飼い犬に手をかまれる	めんどろをみてやった人から、ひどい目にあわされること	飼(かい)犬
蛙の子は蛙	子供は親に似(に)るものである	蛙(かえる)
蛙の面に水	なにをされても平気なこと	蛙(かえる), 面(つら)
勝ってかぶとの緒を締めよ	成功してもゆだんをしてはいけない	緒(お), 締(し)めよ
亀の甲より年の功	長い経験はとうといものである	亀(かめ), 甲(こう), 功(こう)
かわいい子には旅をさせよ	子どもがかわいければ, 苦しい体験をさせよ	
枯れ木も山のにぎわい	役に立たないものでも, ないよりはましである	枯(か)れ木
河童の川流れ	名人と言われるほどの人でも失敗することがある	河童(かっぱ), 川流れ(かわながれ)
雉も鳴かずばうたれまい	よけいなことを言わなければ災難にもあわない	雉(きじ)
木を見て森を見ず	部分だけを見て, 全体をつかめない様子	
聞いて極楽見て地獄	話に聞いただけでは極楽のように思えるが, 実際に見ると地獄のようであること	極楽(ごくらく), 地獄(じごく)
臭いものにふたをする	悪いことが知れ渡らないように表面をとりつくろふこと	臭(くさい)
けがの功名	失敗したことがかえて良い結果を生むこと	功名(こうみょう)
後悔先に立たず	失敗してから悔(く)やんでも遅い	後悔(こうかい)
弘法も筆のあやまり	上手な人もゆだんすると失敗する	弘法(こうぼう), 筆(ふで)
弘法は筆を選ばず	名人は道具のよしあしを問題としない	弘法(こうぼう), 筆(ふで)
紺屋の白袴	他人のことにいそがしくて, 自分のことがおろそかになること	紺屋(こうや), 白袴(しろばかま)

転ばぬ先の杖	失敗しないように前もって用意をしておくこと	転(ころ)ぶ, 杖(つえ)
光陰矢のごとし 策士策におぼれる	日月のたつのは早いものである 駆け引きのうまい人は, 自分の策略に頼ってかえって失敗すること	光陰(こういん) 策士(さくし)
猿も木から落ちる	上手な人もゆだんすると失敗する	
三人寄れば文殊の知恵 さわらぬ神にたたりなし 知らぬが仏	みんなで相談すれば, よい案がうかぶこと 危ないものには手を出さない方がよい 知らなければなやみもなく平静でいられこと	文殊(もんじゅ)
地獄の沙汰も金次第	すべてこの世のことは, 金さえあれば思うようになるものだ	地獄(じごく), 沙汰(さた)
失敗は成功のもと	失敗してその原因を究明することで, 次の機会には成功するようになること	
親しき仲にも礼儀あり	どんなに親しい関係でも最低限の礼儀は必要である	礼儀(れいぎ)
好きこそものの上手なれ	好きなことは熱心にするので, 上達(じょうたつ)するものだ	上手(じょうず)
住めば都	どんなところででも住み慣れれば良いと思うようになる	都(みやこ)
雀百まで踊り忘れず	小さいころからの習慣(しゅうかん)は改(あらた)まりにくい	雀(すずめ), 踊(おどり)
せいては事を仕損じる	ものごとは, あまり急ぐとかえって失敗する	仕損(しそん)じる
背に腹はかえられぬ	せっぱつまったときには, 一方を犠牲にするのもやむを得ないことのとえ	
船頭多くして船山にのぼる	ひとつのことをするのに, おおぜいの人が勝手な意見を出すとまとまらない	船頭(せんどう)
千里の道も一歩から	何事もはじめから着実(ちゃくじつ)に行くべきだ	千里(せんり)
袖すり合うも他生の縁	どんな小さなことでも, 前世からの因縁で起こるということ	袖(そで), 他生(たしょう), 縁(えん)
高嶺の花 高みの見物	あこがれても手には入らないもの 第三者の立場で, 他人のことをおもしろがって見ること	高嶺(たかね) 見物(けんぶつ)
大は小をかねる 蓼食う虫も好き好き	大きいものは小さいものの代わりになる 人の好みは様々であるということ	蓼(たで)

立つ鳥あとをにごさず	住む場所や勤め先を変えるときは、後をみぐるしくしないこと	
旅の恥はかき捨て	旅に出たときは、ふだんは恥ずかしくてできないことも平気でやってしまうこと	恥(はじ), 捨(す)て
棚からぼたもち	思いがけない幸運を得ること	棚(たな)
竹馬の友	子どものころからいっしょに遊んだ友だち	竹馬(ちくば)
ちりも積もれば山となる	わずかなものでも、積み積みもればおおきなものとなること	積(つ)もれば
月とすっぽん	非常にちがいのあること	
角をためて牛を殺す	欠点を直そうとしてかえって元のものをだめにしてしまうこと	角(つの)
鉄は熱いうちに打て	ものごとは機会を逃さずに行うのがよい	
出る杭は打たれる	出すぎて目立ってしまうと、人から非難されたり憎まれたりするものだ	杭(くい)
年寄りの冷や水	老人が年を考えず若い人と同じようなことをするなといういましめ	年寄(としよ)り, 冷(ひ)や水
どろぼうを見て縄をなう	事が起こってからあわてて用意をすること	縄(なわ)
鶯が鷹を生む	平凡な親からすぐれた子供が生まれること	鶯(とび), 鷹(たか)
とらぬタヌキの皮算用	手にはいるかどうかわからないものを、あてにして計算にいれること	皮算用(かわざんよう)
灯台もと暗し	手近なことの方がかえってわかりにくい	灯台(とうだい)
虎の威をかる狐	力のない者が強い者の力にたよっていばること	虎(とら), 威(い), 狐(きつね)
どんぐりの背くらべ	みんなよくにた程度で、ぬきん出た者がいないこと	
飛んで火に入る夏の虫	自ら進んで災いにはまること	
泣きっ面に蜂	悪いことのうえに、また悪いことが重なること	面(つら), 蜂(はち)
長い物には巻かれよ	強い者にはさからわずにしたがったほうがよい	巻(ま)く
情けは人のためならず	人に親切にしておけば、やがて自分の所にいいことがめぐってくる	情(なさ)け
七転び八起き	何度失敗してもくじけずに立ち上がること	七転び(ななころび), 八起き(やおき)
憎まれっ子世にはばかる	他人に憎まれている人に限って世の中で幅をきかせているものだ	憎(にく)まれっ子

二兎を追う者は一兎をも得ず	二つのことを同時にしようとしても、どちらもうまくいかないこと	兎(と：「うさぎ」)
ぬかにくぎ	すこしもききめがないこと	
ぬれ手にあわ	たいした苦勞もしないで、利益を手に入れること	
猫に小判	ねうちのわからないものに貴重なものを与えても無意味であること	小判(こばん)
念には念を入れよ	注意した上にもなお細かく注意しろということ	念(ねん)
馬脚をあらわす 渡りに船	いつわり飾っていたことが、表に出ること 何かをするのに困っていると、ちょうど都合のよいことが起こること	馬脚(ばきゃく) 渡(わた)り
早起きは三文の徳	早起きをすると何かと得をするものだ	三文(さんもん)、徳(とく)
人を見たら泥棒と思え 能ある鷹はつめかくす	かるがるしく他人を信用してはならない 力量のある者ほど謙虚(けんきょ)であること	泥棒(どろぼう) 鷹(たか)
のどもと過ぎれば熱さを忘れる	苦しいことも、過ぎ去ってしまえば忘れてしまうこと	過(す)、熱(あつ)さ
のれんに腕押し	反応がなくはりあいがないこと	腕(うで)、押(お)し
花より団子	風流のあるものより、実利のある方がよいこと	団子(だんご)
人のふり見て我がふり直せ	他人のよくない行動を参考にして自分の行動を反省すること	
人のうわさも七十五日	世間の人のお話もやがては消えてしまうということ	
豚に真珠	ねうちのわからないものに貴重なものを与えても無意味であること	真珠(しんじゅ)
骨折り損のくたびれもうけ	苦勞してもむくわれず、くたびれるだけ	骨折り損(ほねおりぞん)
まかぬ種は生えぬ	原因があるからこそ結果が生じる	種(たね)、生(は)える
待てば海路の日和りあり	待っていればうまくいくときがくる	海路(かいり)、日和り(ひより)
身から出たさび	自分の行いの結果、自分が苦しむこと	
ひいきの引き倒し	ひいきしすぎてかえって不利な立場に追い込んでしまうこと	引(ひ)き倒(た)おし
ひょうたんから駒が出る	冗談半分でいったことが本当になる	駒(こま)

火のない所に煙は立たぬ	ぜんぜん事実がなければうわさは立たないもので、うわさが立つには何か根拠がある	煙(けむり)
百聞は一見にしかず	何回聞くよりも、一度見た方が確かだということ	百聞(ひゃくぶん)、一見
下手の横好き	下手のくせに、むやみに好きで熱心なこと	下手(へた)、横好き(よこずき)
仏の顔も三度まで	どんなに人がよくても、何度も無礼なことをされれば腹を立てる	
仏作って魂入れず	物事のもっとも大切な点をおろそかにすること	魂(たましい)
三つ子の魂百まで 昔とった杵柄	幼いころの性質は一生変わらないものだ 過去に覚えた技は、のちのちまで自信を持って使えるということ	魂(たましい) 杵柄(きねづか)
餅は餅屋 桃栗三年柿八年	専門分野はやはり専門家が当たるのがよい 何事も、結果が出るまでには長い年月がかかるものだ	餅(もち) 桃(もも)、栗(くり)
焼け石に水 安物買いの銭失い	対策がとても追いつかないこと 値段の安いものはどこかに欠点のあるもので、買っても結局は損をするものだ	安物(やすもの)、銭(ぜに)
やぶをつついて蛇を出す	不必要なことをして、かえって災いを引き起こしてしまうこと	蛇(へび)
弱り目にたたり目 寄らば大樹の陰	不運(ふうん)のうえに不運が重なること どうせ頼るのなら、勢力の大きいものの方が安全だということ	弱(よわり)目 寄(よ)らば、大樹(たいじゅ)、陰(かげ)
来年のことを言えば鬼が笑う	将来のことを予測することは難しい	鬼(おに)
楽あれば苦あり	楽しいことがあれば、その後で必ず苦しいことがあるものだ	
類は友を呼ぶ	性質がたがいに似ている者同士は自然に寄り合うものだ	類(るい)
良薬は口に苦し	身のためになる忠告(ちゅうこく)は聞きずらいものだ	良薬(りょうやく)、苦(にが)し
論より証拠	物事は議論より証拠によって明らかになるものだ	論(ろん)、証拠(しょうこ)
渡る世間に鬼はない	世間には親切な人もいる	渡(わた)る、世間(せけん)

【】ことわざ 意味 熟語

悪いことは、だれも知らないと思って世の中に伝わりやすい	悪事千里を走る	悪事(あくじ), 千里(せんり)
不正なことでもうけたお金は、自分の身につかず、すぐになくなってしまうこと	悪銭身につかず	悪銭(あくせん)
危険が身近に迫ること	足元に火がつく	
意外なことが突然身近に起こること	足元から鳥が立つ	
欠点の一部を隠して、全体を隠したと思ひこむこと	頭隠して尻隠さず	隠(かく)す, 尻(しり)
自分と関係がなくなったら、あとはどうなるうとかまわない	あとは野となれ山となれ	
朝早く起きると何かよいことがあるものだ	朝起きは三文の得	三文(さんもん)
好きな人のことは欠点までもが長所のように見えること	あばたもえくぼ	
欲張りすぎてかえって失敗すること	虻蜂とらず	虻(あぶ), 蜂(はち)
雨はいやなものだが、地面を固めてくれるように、争いの後は、かえってうまくいくこと	雨降って地固まる	
力は不足でも根気よくくり返してやれば、最後は成功する	雨垂れ石をうがつ	雨垂(あまだ)れ
いろいろ心配するよりやってみると案外うまくいくものだ	案ずるより生むがやすし	案(あん)ずる
何事にもしんぼうが肝心(かんじん)であるものごとをじゅうぶん用心してやること	石の上にも三年 石橋をたたいてわたる	
着るもの食べるものが十分あるといやしい心も起こらず礼儀をわきまえるようになる	衣食たって礼節を知る	衣食(いしょく), 礼節(れいせつ)
他人にはりっぱなことを言いながら、自分では実行しないこと	医者の不養生	不養生(ふようじょう)
小さく弱い者にも意地があること	一寸の虫にも五分の魂	一寸(いっすん), 五分(ごぶ), 魂(たましい)
ごく近い将来のことでも、何が起こるかわからない	一寸先は闇	一寸(いっすん), 闇(やみ)

少額といってその値打ちをばかにする者は、そのわずかな金額のために泣く思いをする	一銭を笑う者は一銭に泣く	一銭(いっせん)
急いでいるときほど、あわてずにものごとを処理(しより)しなけれなければならない	急がば回れ	
一つのことで、他のすべてのことを推し量ること	一事が万事	一事(いちじ)、 万事(ばんじ)
自分だけのせまい世界にとらわれて、広い世界を知らないこと	井の中の蛙大海を知らず	井(い)、蛙(かわず)、 大海(たいかい)
よけいなことをすると災難(さいなん)にあう	犬も歩けば棒にあたる	棒(ぼう)
はっきり言わない方がよい	言わぬが花	
こちらの気持ちしだいで相手もそれに応じること	魚心あれば水心	魚心(うおごころ)、 水心(みずごころ)
時と場合により、うそも必要だ	うそも方便	方便(ほうべん)
人のうわさをすると、当人がちょうど現れるものだ	うわさをすれば影	影(かげ)
血すじより、育った環境が大切であること	氏より育ち	氏(うじ)
物をさがしだそうとするするどい目	鶺鴒の目鷹の目	鶺鴒(う)、 鷹(たか)
いくら言ってもききめのないこと	馬の耳に念仏	念仏(ねんぶつ)
わずかな元手(もとで)で大きな利益を得ること	えびで鯛を釣る	鯛(たい)、 釣(つ)る
他人のために、人に知られないで陰で努力する人のこと	縁の下の力持ち	縁(えん)
年をとってからは、出しゃばらずに子どもの意見に従った方がよい	老いては子に従え	
ちゅうとはんばで役に立たないこと	帯に短したすきに長し	帯(おび)
追いつめられた状態ではたよりにならないものにもたよろうとすること	おぼれる者はわらをもつかむ	
強い者がさらに強いものを得て、対抗できる者がいない状態になること	鬼に金棒	金棒(かなぼう)
無慈悲な者もときには情けに負けるということ	鬼の目にも涙	涙(なみだ)

いつもは丈夫で病気しらずの人が病気になること	鬼のかくらん	
子を思う親の気持ちを察しないで、子は自分勝手な行動をするものだ	親の心子知らず	
実の親がいなくても、子どもは何とか育っていくものだ	親はなくとも子は育つ	
親の威光がその子にまで及び恩恵を受けること	親の七光	七光(ななひかり)
途中で何があっても結末がよければすべてよいと評価されるものだ	終わりよければすべてよし	
めんどろをみてやった人から、ひどい目にあわされること	飼い犬に手をかまれる	飼(かい)犬
子供は親に似(に)るものである	蛙の子は蛙	蛙(かえる)
なにをされても平気なこと	蛙の面に水	蛙(かえる), 面(つら)
成功してもゆだんをしてはいけない	勝ってかぶとの緒を締めよ	緒(お), 締(し)めよ
長い経験はとうといものである	亀の甲より年の功	亀(かめ), 甲(こう), 功(こう)
子どもがかわいければ、苦しい体験をさせよ	かわいい子には旅をさせよ	
役に立たないものでも、ないよりはましである	枯れ木も山のにぎわい	枯(か)れ木
名人と言われるほどの人でも失敗することがある	河童の川流れ	河童(かっぱ), 川流れ(かわながれ)
よけいなことを言わなければ災難にもあわない	雉も鳴かずばうたれまい	雉(きじ)
部分だけを見て、全体をつかめない様子	木を見て森を見ず	
話に聞いただけでは極楽のように思えるが、実際に見ると地獄のようであること	聞いて極楽見て地獄	極楽(ごくらく), 地獄(じごく)
悪いことが知れ渡らないように表面をとりつくること	臭いものにふたをする	臭(く)さい
失敗したことがかえって良い結果を生むこと	けがの功名	功名(こうみょう)
失敗してから悔(く)やんでも遅い	後悔先に立たず	後悔(こうかい)

上手な人もゆだんすると失敗する	弘法も筆のあやまり	弘法(こうぼう), 筆(ふで)
名人は道具のよしあしを問題としない	弘法は筆を選ばず	弘法(こうぼう), 筆(ふで)
他人のことにいそがしくて, 自分のことがおろそかになること	紺屋の白袴	紺屋(こうや), 白袴(しろばかま)
失敗しないように前もって用意をしておくこと	転ばぬ先の杖	転(ころ)ぶ, 杖(つえ)
月日のたつのは早いものである	光陰矢のごとし	光陰(こういん)
駆け引きのうまい人は, 自分の策略に頼ってかえって失敗すること	策士策におぼれる	策士(さくし)
上手な人もゆだんすると失敗する	猿も木から落ちる	
みんなで相談すれば, よい案がうかぶこと	三人寄れば文殊の知恵	文殊(もんじゆ)
危ないものには手を出さない方がよい	さわらぬ神にたたりなし	
知らなければなやみもなく平静でいられこと	知らぬが仏	
すべてこの世のことは, 金さえあれば思うようになるものだ	地獄の沙汰も金次第	地獄(じごく), 沙汰(さた)
失敗してその原因を究明することで, 次の機会には成功するようになること	失敗は成功のもと	
どんなに親しい関係でも最低限の礼儀は必要である	親しき仲にも礼儀あり	礼儀(れいぎ)
好きなことは熱心にするので, 上達(じょうたつ)するものだ	好きこそものの上手なれ	上手(じょうず)
どんなところでも住み慣れれば良いと思うようになる	住めば都	都(みやこ)
小さいころからの習慣(しゅうかん)は改(あらた)まりにくい	雀百まで踊り忘れず	雀(すずめ), 踊(おどり)
ものごとは, あまり急ぐとかえって失敗する	せいては事を仕損じる	仕損(しそん)じる
せっぱつまったときには, 一方を犠牲にするのもやむを得ないことのたとえ	背に腹はかえられぬ	
ひとつのことをするのに, おおぜいの人が勝手な意見を出すとまとまらない	船頭多くして船山にのぼる	船頭(せんどう)
何事もはじめから着実(ちゃくじつ)に行うべきだ	千里の道も一歩から	千里(せんり)

どんな小さなことでも，前世からの因縁で起こるということ	袖すり合うも他生の縁	袖(そで)，他生(たしょう)，縁(えん)
あこがれても手には入らないもの	高嶺の花	高嶺(たかね)
第三者の立場で，他人のことをおもしろがって見ること	高みの見物	見物(けんぶつ)
大きいものは小さいものの代わりになる	大は小をかねる	
人の好みは様々であるということ	蓼食う虫も好き好き	蓼(たで)
住む場所や勤め先を変えるときは，後をみぐるしくしないこと	立つ鳥あとをにごさず	
旅に出たときは，ふだんは恥ずかしくてできないことも平気でやってしまうこと	旅の恥はかき捨て	恥(はじ)，捨(す)て
思いがけない幸運を得ること	棚からぼたもち	棚(たな)
子どものころからいっしょに遊んだ友だち	竹馬の友	竹馬(ちくば)
わずかなものでも，積み積み重ねればおおきなものとなること	ちりも積み重ねれば山となる	積(つ)もれば
非常にちがいのあること	月とすっぽん	
欠点を直そうとてかえって元のをだめにしてしまうこと	角をためて牛を殺す	角(つの)
ものごとは機会を逃さずに行うのがよい	鉄は熱いうちに打て	
出すぎて目立ってしまうと，人から非難されたり憎まれたりするものだ	出る杭は打たれる	杭(くい)
老人が年を考えず若い人と同じようなことをするなといういましめ	年寄りの冷や水	年寄(としよ)り，冷(ひ)や水
事が起こってからあわてて用意をすること	どろぼうを見て縄をなう	縄(なわ)
平凡な親からすぐれた子供が生まれること	鶯が鷹を生む	鶯(とび)，鷹(たか)
手にはいるかどうかわからないものを，あてにして計算にいれること	とらぬタヌキの皮算用	皮算用(かわざんよう)
手近なことの方がかえってわかりにくい	灯台もと暗し	灯台(とうだい)
力のない者が強い者の力にたよっていばること	虎の威をかる狐	虎(とら)，威(い)，狐(きつね)
みんなよくにた程度で，ぬきん出た者がいないこと	どんぐりの背くらべ	
自ら進んで災いにはまること	飛んで火に入る夏の虫	

悪いことのうえに，また悪いことが重なること	泣きっ面に蜂	面(つら)，蜂(はち)
強い者にはさからわずにしたがったほうがよい	長い物には巻かれよ	巻(ま)く
人に親切にしておけば，やがて自分の所にいいことがめぐってくる	情けは人のためならず	情(なさ)け
何度失敗してもくじけずに立ち上がること	七転び八起き	七転び(ななころび)，八起き(やおき)
他人に憎まれている人に限って世の中で幅をきかせているものだ	憎まれっ子世にはばかる	憎(にく)まれっ子
二つのことを同時にしようとしても，どちらもうまくいかないこと	二兎を追う者は一兎をも得ず	兎(と：「うさぎ」)
すこしもききめがないこと	ぬかにくぎ	
たいした苦労もしないで，利益を手に入れること	ぬれ手にあわ	
ねうちのわからないものに貴重なものを与えても無意味であること	猫に小判	小判(こばん)
注意した上にもなお細かく注意しろということ	念には念を入れよ	念(ねん)
いつわり飾っていたことが，表に出ること	馬脚をあらわす	馬脚(ばきゃく)
何かをするのに困っていると，ちょうど都合のよいことが起こること	渡りに船	渡(わた)り
早起きをすると何かと得をするものだ	早起きは三文の徳	三文(さんもん)，徳(とく)
かるがるしく他人を信用してはならない	人を見たら泥棒と思え	泥棒(どろぼう)
力量のある者ほど謙虚(けんきょ)であること	能ある鷹はつめかくす	鷹(たか)
苦しいことも，過ぎ去ってしまえば忘れてしまうこと	のどもと過ぎれば熱さを忘れる	過(す)，熱(あつ)さ
反応がなくはりあいがないこと	のれんに腕押し	腕(うで)，押(お)し
風流のあるものより，実利のある方がよいこと	花より団子	団子(だんご)
他人のよくない行動を参考にして自分の行動を反省すること	人のふり見て我がふり直せ	

世間の人のうわさ話もやがては消えてしま うということ	人のうわさも七十五日	
ねうちのわからないものに貴重なものを与 えても無意味であること	豚に真珠	真珠(しんじ ゆ)
苦労してもむくわれず、くたびれるだけ	骨折り損のくたびれもうけ	骨折り損(ほね おりぞん)
原因があるからこそ結果が生じる	まかぬ種は生えぬ	種(たね), 生 (は)える
待っていればうまくいくときがくる	待てば海路の日和りあり	海路(かいり), 日和り(ひよ り)
自分の行いの結果, 自分が苦しむこと	身から出たさび	
ひいきしすぎてかえって不利な立場に追い 込んでしまうこと	ひいきの引き倒し	引(ひき倒(た お)し)
冗談半分でいったことが本当になる	ひょうたんから駒が出る	駒(こま)
ぜんぜん事実がなければうわさは立たない もので, うわさが立つには何か根拠がある	火のない所に煙は立たぬ	煙(けむり)
何回聞くよりも, 一度見た方が確かだとい うこと	百聞は一見にしかず	百聞(ひゃくぶ ん), 一見(い っけん)
下手のくせに, むやみに好きで熱心なこと	下手の横好き	下手(へた), 横好き(よこず き)
どんなに人がよくても, 何度も無礼なこと をされれば腹を立てる	仏の顔も三度まで	
物事のもっとも大切な点をおろそかにする こと	仏作って魂入れず	魂(たましい)
幼いころの性質は一生変わらないものだ	三つ子の魂百まで	魂(たましい)
過去に覚えた技は, のちのちまで自信を持 って使えるということ	昔とった杵柄	杵柄(きねづ か)
専門分野はやはり専門家が当たるのがよい	餅は餅屋	餅(もち)
何事も, 結果が出るまでには長い年月がか かるものだ	桃栗三年柿八年	桃(もも), 栗 (くり)
対策がとても追いつかないこと	焼け石に水	
値段の安いものはどこかに欠点のあるもの で, 買っても結局は損をするものだ	安物買いの銭失い	安物(やすも の), 銭(ぜに)
不必要なことをして, かえって災いを引き 起こしてしまうこと	やぶをつついて蛇を出す	蛇(へび)

不運(ふうん)のうえに不運が重なること どうせ頼るのなら，勢力の大きいものの方が安全だということ	弱り目にたたり目 寄りば大樹の陰	弱(よわ)り目 寄(よ)らば， 大樹(たいじゆ)，陰(かげ)
将来のことを予測することは難しい 楽しいことがあれば，その後で必ず苦しいことがあるものだ	来年のことを言えば鬼が笑う 楽あれば苦あり	鬼(おに)
性質がたがいに似ている者同士は自然に寄り合うものだ	類は友を呼ぶ	類(るい)
身のためになる忠告(ちゅうこく)は聞きづらいものだ	良薬は口に苦し	良薬(りょうやく)，苦(にが)し
物事は議論より証拠によって明らかになるものだ	論より証拠	論(ろん)，証拠(しょうこ)
世間には親切な人もいる	渡る世間に鬼はない	渡(わた)る， 世間(せけん)， 鬼(おに)

【】ことわざ 適語記入

悪事()を走る	悪いことは、だれも知らないと思ってても世の中に伝わりやすい	悪事千里を走る
悪銭()	不正なことでもうけたお金は、自分の身につかず、すぐになくなってしまうこと	悪銭身につかず
足元に()	危険が身近に迫ること	足元に火がつく
足元から()	意外なことが突然身近に起こること	足元から鳥が立つ
頭隠して()	欠点の一部を隠して、全体を隠したと思いきこむこと	頭隠して尻隠さず
あとは()	自分と関係がなくなったら、あとはどうなろうとかまわない	あとは野となれ山となれ
朝起きは()	朝早く起きると何かよいことがあるものだ	朝起きは三文の得
あばたも()	好きな人のことは欠点までもが長所のように見えること	あばたもえくぼ
虻蜂()	欲張りすぎてかえって失敗すること	虻蜂とらず
雨降って()	雨はいやなものだが、地面を固めてくれるように、争いの後は、かえってうまくいくこと	雨降って地固まる
雨垂れ石を()	力は不足でも根気よくくり返してやれば、最後は成功する	雨垂れ石をうがつ
案ずるより()	いろいろ心配するよりやってみると案外うまくいくものだ	案ずるより生むがやすし
()にも三年	何事にもしんぼうが肝心(かんじん)である	石の上にも三年
()をたたいてわたる	ものごとをじゅうぶん用心してやること	石橋をたたいてわたる
衣食たつて()を知る	着るもの食べるものが十分あるといやしい心も起こらず礼儀をわきまえるようになる	衣食たつて礼節を知る
医者()	他人にはりっぱなことを言いながら、自分では実行しないこと	医者の不養生
一寸の虫にも()	小さく弱い者にも意地があること	一寸の虫にも五分の魂
一寸先は()	ごく近い将来のことでも、何が起こるかわからない	一寸先は闇
一銭を笑う者は()	少額といってその値打ちをばかにする者は、そのわずかな金額のために泣く思いをする	一銭を笑う者は一銭に泣く

急がば()	急いでいるときほど、あわてずにものごとを処理(しより)しなけれなならない	急がば回れ
一事が()	一つのこと、他のすべてのことを推し量ること	一事が万事
井の中の蛙()	自分だけのせまい世界にとらわれて、広い世界を知らないこと	井の中の蛙大海を知らず
犬も歩けば()	よけいなことをすると災難(さいなん)にあう	犬も歩けば棒にあたる
言わぬが()	はっきり言わない方がよい	言わぬが花
魚心あれば()	こちらの気持ちしだいで相手もそれに応じること	魚心あれば水心
うそも()	時と場合により、うそも必要だ	うそも方便
うわさをすれば()	人のうわさをすると、当人がちょうど現れるものだ	うわさをすれば影
氏より()	血すじより、育った環境が大切であること	氏より育ち
鵜の目()	物をさがしだそうとするするどい目	鵜の目鷹の目
馬の耳に()	いくら言ってもききめのないこと	馬の耳に念仏
えびで()	わずかな元手(もとで)で大きな利益を得ること	えびで鯛を釣る
縁の下の()	他人のために、人に知られないで陰で努力する人のこと	縁の下の力持ち
老いては()	年をとってからは、出しゃばらずに子どもの意見に従った方がよい	老いては子に従え
帯に短し()	ちゅうとはんばで役に立たないこと	帯に短したすきに長し
おぼれる者は()	追いつめられた状態ではたよりにならないものにもたよろうとすること	おぼれる者はわらをもつかむ
鬼に()	強い者がさらに強いものを得て、対抗できる者がいない状態になること	鬼に金棒
鬼の目にも()	無慈悲な者もときには情けに負けるということ	鬼の目にも涙
鬼の()	いつもは丈夫で病気しらずの人が病気になること	鬼のかくらん
親の心()	子を思う親の気持ちを察しないで、子は自分勝手な行動をするものだ	親の心子知らず
親はなくとも()	実の親がいなくても、子どもは何とか育っていくものだ	親はなくとも子は育つ

親の()	親の威光がその子にまで及び恩恵を受けること	親の七光
終わりよければ()	途中で何があっても結末がよければすべてよいと評価されるものだ	終わりよければすべてよし
()に手をかまれる	めんどろをみてやった人から、ひどい目にあわされること	飼い犬に手をかまれる
蛙の子は()	子供は親に似(に)るものである	蛙の子は蛙
蛙の面に()	なにをされても平気なこと	蛙の面に水
勝ってかぶとの()	成功してもゆだんをしてはいけない	勝ってかぶとの緒を締めよ
亀の甲より()	長い経験はとうといものである	亀の甲より年の功
かわいい子には()	子どもがかわいければ、苦しい体験をさせよ	かわいい子には旅をさせよ
枯れ木も山の()	役に立たないものでも、ないよりはましである	枯れ木も山のにぎわい
河童の()	名人と言われるほどの人でも失敗することがある	河童の川流れ
雉も鳴かずば()	よけいなことを言わなければ災難にもあわない	雉も鳴かずばうたれまい
木を見て()	部分だけを見て、全体をつかめない様子	木を見て森を見ず
聞いて極楽()	話に聞いただけでは極楽のように思えるが、実際に見ると地獄のようであること	聞いて極楽見て地獄
臭いものに()	悪いことが知れ渡らないように表面をとりつくろふこと	臭いものにふたをす
けがの()	失敗したことがかえって良い結果を生むこと	けがの功名
後悔先に()	失敗してから悔(く)やんでも遅い	後悔先に立たず
弘法も筆の()	上手な人もゆだんすると失敗する	弘法も筆のあやまり
弘法は筆を()	名人は道具のよしあしを問題としない	弘法は筆を選ばず
紺屋の()	他人のことにいそがしくて、自分のことがおろそかになること	紺屋の白袴
転ばぬ先の()	失敗しないように前もって用意をしておくこと	転ばぬ先の杖
光陰()	月日のたつのは早いものである	光陰矢のごとし
策士策に()	駆け引きのうまい人は、自分の策略に頼ってかえって失敗すること	策士策におぼれる
()も木から落ちる	上手な人もゆだんすると失敗する	猿も木から落ちる

三人寄れば()	みんなで相談すれば、よい案がうかぶこと	三人寄れば文殊の知恵
さわらぬ神に()	危ないものには手を出さない方がよい	さわらぬ神にたたりなし
知らぬが()	知らなければなやみもなく平静でいられこと	知らぬが仏
地獄の沙汰も()	すべてこの世のことは、金さえあれば思うようになるものだ	地獄の沙汰も金しい
失敗は成功の()	失敗してその原因を究明することで、次の機会には成功するようになること	失敗は成功のもと
親しき仲にも()	どんなに親しい関係でも最低限の礼儀は必要である	親しき仲にも礼儀あり
好きこそ()	好きなことは熱心にするので、上達(じょうたつ)するものだ	好きこそものの上手なれ
住めば()	どんなところでも住み慣れれば良いと思うようになる	住めば都
雀百まで()	小さいころからの習慣(しゅうかん)は改(あらた)まりにくい	雀百まで踊り忘れず
せいては()	ものごとは、あまり急ぐとかえって失敗する	せいては事を仕損じる
背に腹は()	せっぱつまったときには、一方を犠牲にするのもやむを得ないことのたとえ	背に腹はかえられぬ
船頭多くして()	ひとつのことをするのに、おおぜいの人勝手な意見を出すとまとまらない	船頭多くして船山にのぼる
千里の道も()	何事もはじめから着実(ちゃくじつ)に行うべきだ	千里の道も一歩から
袖すり合うも()	どんな小さなことでも、前世からの因縁で起こるということ	袖すり合うも他生の縁
高嶺の()	あこがれても手には入らないもの	高嶺の花
高みの()	第三者の立場で、他人のことをおもしろがって見ること	高みの見物
大は()	大きいものは小さいものの代わりになる	大は小をかねる
蓼食う虫も()	人の好みは様々であるということ	蓼食う虫も好き好き
立つ鳥あとを()	住む場所や勤め先を変えるときは、後をみぐるしくしないこと	立つ鳥あとをにごさず
旅の恥は()	旅に出たときは、ふだんは恥ずかしくてできないことも平気でやってしまうこと	旅の恥はかき捨て
柵から()	思いがけない幸運を得ること	柵からぼたもち

竹馬の()	子どものころからいっしょに遊んだ友だち	竹馬の友 ち
ちりも積もれば()	わずかなものでも、積もり積もればおおきなものとなること	ちりも積もれば山と なる
月と()	非常にちがいのあること	月とすっぽん
角をためて()	欠点を直そうとてかえって元のものをだめにしてしまうこと	角をためて牛を殺す
鉄は熱いうちに()	ものごとは機会を逃さずに行うのがよい	鉄は熱いうちに打て
出る杭は()	出すぎて目立ってしまうと、人から非難されたり憎まれたりするものだ	出る杭は打たれる
年寄りの()	老人が年を考えず若い人と同じようなことをするなといういましめ	年寄りの冷や水
どろぼうを見て()	事が起こってからあわてて用意をすること	どろぼうを見て縄を なう
鶯が()	平凡な親からすぐれた子供が生まれること	鶯が鷹を生む
とらぬタヌキの()	手にはいるかどうかわからないものを、あてにして計算にいれること	とらぬタヌキの皮算 用
灯台もと()	手近なことの方がかえってわかりにくい	灯台もと暗し
虎の威を()	力のない者が強い者の力にたよっていばること	虎の威をかる狐
どんぐりの()	みんなよくにた程度で、ぬきん出た者がいないこと	どんぐりの背くらべ
飛んで火に入る()	自ら進んで災いにはまること	飛んで火に入る夏の 虫
泣きっ面に()	悪いことのうえに、また悪いことが重なること	泣きっ面に蜂
長い物には()	強い者にはさからわずにしたがったほうがよい	長い物には巻かれよ
情けは人の()	人に親切にしておけば、やがて自分の所にいいことがめぐってくる	情けは人のためなら ず
七転び()	何度失敗してもくじけずに立ち上がること	七転び八起き
憎まれっ子()	他人に憎まれている人に限って世の中で幅をきかせているものだ	憎まれっ子世にはば かる
二兎を追う者は()	二つのことを同時にしようとしても、どちらもうまくいかないこと	二兎を追う者は一兎 をも得ず

ぬかに()	すこしもききめがないこと	ぬかにくぎ
ぬれ手に()	たいした苦勞もしないで，利益を手に入れること	ぬれ手にあわ
猫に()	ねうちのわからないものに貴重なものを与えても無意味であること	猫に小判
念には念を()	注意した上にもなお細かく注意しろということ	念には念を入れよ
馬脚を()	いつわり飾っていたことが，表に出ること	馬脚をあらわす
渡りに()	何かをするのに困っていると，ちょうど都合のよいことが起こること	渡りに船
早起きは()	早起きをするとか何かと得をするものだ	早起きは三文の徳
人を見たら()	かるがるしく他人を信用してはならない	人を見たら泥棒と思え
能ある鷹は()	力量のある者ほど謙虚(けんきょ)であること	能ある鷹はつめかくす
のどもと過ぎれば()	苦しいことも，過ぎ去ってしまえば忘れてしまうこと	のどもと過ぎれば熱さを忘れる
のれんに()	反応がなくはりあいがないこと	のれんに腕押し
花より()	風流のあるものより，実利のある方がよいこと	花より団子
人のふり見て()	他人のよくない行動を参考にして自分の行動を反省すること	人のふり見て我がふり直せ
人のうわさも()	世間の人のうわさ話もやがては消えてしまうということ	人のうわさも七十五日
豚に()	ねうちのわからないものに貴重なものを与えても無意味であること	豚に真珠
骨折り損の()	苦勞してもむくわれず，くたびれるだけ	骨折り損のくたびれもうけ
まかぬ種は()	原因があるからこそ結果が生じる	まかぬ種は生えぬ
待てば海路の()	待っていればうまくいくときがくる	待てば海路の日和りあり
身から出た()	自分の行いの結果，自分が苦しむこと	身から出たさび
ひいきの()	ひいきしすぎてかえって不利な立場に追い込んでしまうこと	ひいきの引き倒し
ひょうたんから()	冗談半分でいったことが本当になる	ひょうたんから駒が出る

火のない所に()	ぜんぜん事実がなければうわさは立たないもので、うわさが立つには何か根拠がある	火のない所に煙は立たぬ
百聞は()	何回聞くよりも、一度見た方が確かだということ	百聞は一見にしかず
下手の()	下手のくせに、むやみに好きで熱心なこと	下手の横好き
仏の顔も()	どんなに人がよくても、何度も無礼なことをされれば腹を立てる	仏の顔も三度まで
仏作って()	物事のもっとも大切な点をおろそかにすること	仏作って魂入れず
三つ子の魂()	幼いころの性質は一生変わらないものだ	三つ子の魂百まで
昔とった()	過去に覚えた技は、のちのちまで自信を持って使えるということ	昔とった杵柄
餅は()	専門分野はやはり専門家が当たるのがよい	餅は餅屋
桃栗三年()	何事も、結果が出るまでには長い年月がかかるものだ	桃栗三年柿八年
焼け石に()	対策がとても追いつかないこと	焼け石に水
安物買いの()	値段の安いものはどこかに欠点のあるもので、買っても結局は損をするものだ	安物買いの銭失い
やぶをつついて()	不必要なことをして、かえって災いを引き起こしてしまうこと	やぶをつついて蛇を出す
弱り目に()	不運(ふうん)のうえに不運が重なること	弱り目にたたり目
寄らば()	どうせ頼るのなら、勢力の大きいものの方が安全だということ	寄らば大樹の陰
来年のことを言えば()	将来のことを予測することは難しい	来年のことを言えば鬼が笑う
楽あれば()	楽しいことがあれば、その後で必ず苦しいことがあるものだ	楽あれば苦あり
類は友を()	性質がたがいに似ている者同士は自然に寄り合うものだ	類は友を呼ぶ
良薬は()	身のためになる忠告(ちゅうこく)は聞きづらいものだ	良薬は口に苦し
論より()	物事は議論より証拠によって明らかになるものだ	論より証拠
渡る世間に()	世間には親切な人もいる	渡る世間に鬼はない